TNVN network news
東京日本語ボランティア・ネットワーク
2016.3.11 発行 No.93
〒 162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1 ☎ 03-3235-1171（呼出） 東京ボランティア・市民活動センター メールボックス No.4

TNVN 情報・意見交換会で多数の有益な情報と意見がありました

TNVN 会員が一堂に会する機会は TNVN 総会です。総会後に情報・意見交換を行っていますが時間の制約もあり、自己紹介の中で活動の状況や課題の報告に終わっています。この度の情報・意見交換会は会員の皆さまが親しく顔を合わせて、日本語ボランティア活動に関する情報や意見を交換する機会を持ちたいと考えて開催しました。

2015年12月6日の13時～16時半まで新橋の会議室に16団体21名の方々が参加されました。

◉設立時期が 2 年半前から 20 年前後と活動期間は幅広く、特に 20 年前後の団体が 7 団体

◉ボランティア数は数名 2 団体、10 ～ 16 名のところが最も多く、多いところは 70 名

3 時間半に及ぶ話題は教室毎に事情や対応に異なるところもありましたが共通な課題で多数有益な情報と意見が出ました。紙面の都合で全てを載せることができませんでした。

以下項目毎に各教室での課題・活動状況などをまとめました。

（梶村）

1 ボランティア活動

◉ボランティアの高齢化の中で若い人をいかに入れていくか

- ボランティアの高齢化について6団体が直面、若い人の参加を望んでいる。
- 40代は日本語学校へのスキルアップとしてボランティア教室に来る。
- ボランティア不足の中で高齢者をどの様に受け入れていくか。
- 今元気であればボランティア活動をどんどんして貰いたい。
- 10年、20年前の経験・やり方に固執するボランティアがいる。
- 高校生がボランティア実習に来て刺激になった。

◉夜の教室の特徴

- 夜の教室はボランティアの参加者が少なく運営の仕組みを変える必要がある。
- ボランティアが不足して、クラス数が少ないのでボランティア1名に対し学習者4名となり1グループの学習者のレベルがばらばらで対応が難しい。
- 夜の活動は来れる時に来て貰う。会社の都合で中退や休む事がある。

◉役割分担

- 役割分担をして貰いたいがなかなかやり手がない。
- 若い人（40～60代）を教室運営に関わってもらいたいがどのように入れていくか。
- 役の分担で初年度は役を引き受けなくてもよいというルールを作った。
- ボランティア希望者にはオリエンテーションで資料を示し（二日間）最後に宗教・政治・営利活動をしないことを明記する。

◉ボランティアの養成

- 区市の行政や国際交流協会が講座を開いている。
- 市の国際協会開催の基礎講座に参加、ステップアップ講座で研修をしている。
- 区の養成講座の終了者にボランティア教室を紹介している。
- 支援者養成講座は毎年開催、支援者を増やしているが待機学習者もいる。
- 支援者を増やすために養成講座を開催しているが講座のシステム化が必要ではないか。

◉ボランティアへの認識

- ボランティア日本語教室はことばの壁をなくすために草の根運動で日本語学習支援活動を行っている。

- 行政は日本語ボランティアをどのように位置づけているか分からない。
- 日本語ボランティアの位置づけがはっきりしなのは日本語ボランティア活動についてまだ発信力が弱いのではないか。
- 日本語ボランティアの必要性が認められていない。
- ボランティアを募集しても応募者が少ないのは日本語ボランティア活動は敷居が高い。日本語ボランティア活動は敷居が高いし、間口が狭いと感じているのではないか。。
- ボランティアを増やすにはボランティア活動についてPRが必要ではないか。

2 学習者

◉学習者の状況

- 学習者は震災後減少し、その後元に戻ったところがあれば、その後減少したり、そのまま戻らないところもあり様々である。
- 夜の教室の学習者はビジネスマンが多いが定着しない。
- 学習者のニーズは多様、千差万別でどのクラス入ってもらうかが悩み。
- アジア圏（タイ、ベトナム、ミャンマー）が増え、韓国減　中国は多い。
- 多摩地域の特性か研修生・若い人がすごく増えた。

◉行事・イベント

- イベントを通して学習者との交流を深める。
- 日本語の学習のほか新年会、夏の集い、花火大会、等様々なイベントを学習者と一緒に催している。
- 防災：毎年秋に立川防災館で疑似体験を実施。
- 市の福祉の会が開催の「世界のことばでこんにちは」の行事を年変わりに開催するが3教室が交代で当番に当たり、その会のトップの個性がでる。
- 10年目で、国際交流協会が開催した交流サロンのティーパーティに参加してよかった。

3 子どもの教育

◉行政との関わり

- 子どもの支援は地域行政の取り組みが関わってくる。
- 八王子市国際協会が半分費用を出して学習支援をしている。教育委員会の支援終了後、ボランティアが2か所で行っている。
- 武蔵野市国際交流協会も熱心で古くから子どもを支援している。
- 行政・教育委員会は外国人支援の必要性はわかっているが、関わると面倒になるので対応しない。

◉学校・教育委員会との関わり

- 学校での指導終了後を区の国際交流協会と連携してボランティアベースで始めた。
- 学校や教育委員会に理解してもらうにはボランティアが子どもの支援に熱心に取り組んで行く事が必要です。

◉ボランティアでの支援

- 『日本語スクールネット』が入学した子供を取り出して市からの援助を少し受けて支援をしている。
- 新宿区では言葉がわからないまま成長したら正常な生活ができないと熱心なボランティアが子どもの日本語支援・学習支援を立ち上げた。
- 子どもの支援は一般のボランティアは無理、教師経験者が教えること。
- 退職教師に声をかければ教科指導をしてくれる人がいる。
- 教師経験者で日本語の支援が出来なくても教科書を教えてくれる人を募集するのも一つの方法。教師の経験者を活用する。

4 多文化共生社会に向けて

◉地域との連携をどうやっているか

- 連携をする事で他の活動情報を得て今後の活動に繋げていきた。
- 八王子の多文化共生推進は国際協会が進め、市は事業を八王子国際協会に委託し、そこから他の団体・グループが個別に受けて、行事を行っている。
- 市との協働を図り多文化共生の推進に関わっていきたい。

◉第10ブロックの活動（東久留米と近隣5市）

- 市が中心になって運営され5市の自治体・外国人支援団体が集まっている。
- 外国人のニーズに応えるには1団体では対応が出来ない、地域で団体が集まって協力しあっている。
- 日本語だけでなく、防災やその他の外国人支援などを話し合っている。
- 現在取り組んでいる事

①日本語ボランティア教室案内マップ・リーフレットを作成（5市の教室を1枚に）5市で活用
②各市で催される日本語養成講習会等の情報を共有し相互に参加する。
③防災訓練の共同実施
④外国人相談会を共有（開催しない市もあるので案内を5市に流している）
⑤子どもの日本語教室を共有（各　市で枠を外している）
⑥多文化共生推進プランの資料を交換し他市でやっている状況を知らせる。

◉地域でのネットワーク

- 多文化共生の活動はボランティアとして地域に根ざした活動としてすでに行っている。
- 外国人の為になるためには、行政とボランティアが一緒にやっていく。
- 行政が日本語ボランティアを効果的に活用する。
- 日本語ボランティアは何をどこまでやるか難しい。
- 日本語ボランティア教室間の連携プレーはない。
- 日本語学習を通して「やさしい日本語」を使うことで、日本社会で暮らしやすくなるのではないか。
- ボランティア日本語教室に来られない外国人への対応をどの様にするか重要な課題である。

“手引き”作成の取り組みに関わって

寄稿

協力会員 **小田 良子**（所沢インターナショナルファミリー）

東日本大震災の年、2011年2月の東京都国際交流委員会主催「国際化市民フォーラム」でTNVNの「わかる日本語」への取り組みについて伺ったことをきっかけに、その4月から「わかる日本語」研究会に参加させていただいています。

5年がたったこのお正月には、外国人との共生をテーマとした特集を新聞・テレビでいくつか目にし、中には「やさしい日本語」に言及したものもありました。災害時から日常場面へと「やさしい日本語」の必要性が認識される時期に研究会に参加、冊子の作成にも関わらせていただきました。

TNVNの冊子の特徴は、まず第一に対象者を日本語能力試験N5レベルの人に近づけた点ですが、さらに言えば、机上で知識をまとめたものではなく、研究会のメンバーが、実際に「外国人のための生活ガイド」をリライトする作業を通じてまとめたものであることにあると思います。手引きの作成を目的とするなら、もっと短期間で作成することもできたでしょうが、検討を繰り返しまとまった量のリライトをしたことで得られたことは多く、その実践の一部は今回発行された『手引き』に文例として掲載され、多くのリライト文を参考にしていただける構成になっています。

また研究会のメンバーが日本語ボランティアなど日常的に外国人と接する人で構成されていたことも特徴であり、リライトにはそれぞれの経験が生かされました。原文のどの情報をカットし逆に何を追加するか、ある語彙をリライトするか、あるいはそのまま残し説明を加える形にするか、こういった判断は対象を良く知るボランティアの腕の見せ所と感じました。

今後は外国人への情報発信にこの冊子を広く活用していただくことを願いますが、作業の中でこれからさらに必要になってくるのではないかと思う点にも気づかされました。統一感のある、ぶれない（ゆれがない）リライトの必要性です。私たちも一度はよしとした表現に冊子の編集段階で手を入れ、よりわかりやすくなるよう統一を図ったケースが多々ありました。

わかる日本語（やさしい日本語）の活用が増えるにつれ、「大量の」文書を「継続して」「複数の書き手によって」リライトする機会は増えることでしょう。冊子で「ポイント」として紹介したものは、私たちが考える目安であり、対象や目的に応じてその都度基準を確認する作業が必要ですが、それが分量のあるものや複数の人の手で行う場合には、なおさらです。今後も、どうすればよりわかりやすい情報発信ができるか、研究会の皆さんと考えていきたいと思います。

「わかる日本語」作成のための“手引き”を発行しました。

「わかる日本語」研究会の取り組みはTNVN Network Newsで取り上げて来ました。

No.73では“日本語を母語としない人に「わかる日本語」をテーマに研究会を始めました”と紹介しました。その中で2010年9月都内のボランティア日本語教室の学習者と支援者にアンケート調査を実施（回答163人）し、85%が「情報はわかりやすい日本語で書いてほしい」との内容を掲載しました。

No.73の発行日は奇しくも2011年3月11日で、東日本大震災が発生し、東京ボランティア市民活動センター（10階）でTNVNのスタッフが発送作業をしていました。

東北地方では災害に直面した外国人に災害情報を多言語に加え「やさしい日本語」がweb等で伝えていました。

2010年11月“日本語を母語としない人にわかりやすい日本語で情報を伝える”を念頭に研究会をスタート、リライトの原材に東京都国際交流委員会のhome page「外国人のための生活ガイド」日本語版を使わせて貰い、5年間“わかりやすい日本語にリライトする”作業をしてきました。

研究会メンバーはTNVNスタッフ・日本語ボランティア・大学の専門家・大学院生・区職員で20名が関わりました。

その成果を2012年7月には“「わかる日本語」研究会報告”、今回2016年1月に「わかる日本語」作成のための“手引き”を冊子としました。

冊子内容はTNVNホームページ

http://www.tnvn.jp

に掲載しています。

「わかる日本語」研究会

私の国から

私の国マレーシア『馬来西亜』

邱 麗詩（マレーシア）
早稲田奉仕園日本語ボランティアの会（新宿区）

私は、マレーシアから参りました。来日してもうすぐ一年経ちます。最初は日本語を話ことや理解することが出来ませんでした。今、奉仕園で日本語を勉強していますので徐々に日本語を使えるようになってきました。

私の出身地はマレーシアです。私の国はとても小さくて綺麗な島です。現在フォーブスのデータによると、退職した人が最も集まる国の世界ランキング、トップ13位にランクされています。理由は外国人にとって、税金がかからないからです。さらに、色々な外国語が話せますし、物価も安いです。

マレーシアには馬来西亜半島と東マレーシアがあります。馬来西亜半島は世界地図で見ると日本のサツマイモのような形をしています。そして東マレーシアは龍の形をしています。首都クアラルンプール以外は田舎です。山々と熱帯雨林の森が有ります。一番高い山はコタキナバルで登山家の好きな山です。世界中から登山者がネットで登山届けを申し込んだら、単独でも登山できますし、不思議な風景が楽しめると聞いています。

我が国は小さな国ですが主要な輸出品としてヤシ油とゴムがあります。

熱帯雨林の国では年間平均降雨量が多くて良い土地であり、色々な種類の熱帯果物を一年中栽培することができます。いくつかの有名な果物があって、そのうちの一つがドリアンで、『果実の王』と呼ばれています。その他にマンギス『果実の女王』やランブータンなどがあります。それら美味しい果物が安く食べられます。

人口は約三千万人で多民族国家です。マレーシア国民は約91％で三つの主要民族（マレー系、華人系、インド系）と他民族（オラン・アスリなど）です。他の国の人が9％です。

マレー系の人々.

イスラム教が国教であり、マレー系の方は多く信仰していますが、華人系は仏教、インド人系はヒンドゥー教を信仰しています。

マレーシアの名物はココナッツです。マレーシアではイスラム教国ですが、様々な料理があります。マレー料理の代表としてナシレマはココナッツミルクで作れたものです。他に料理も有りインド料理の代表としてロティやサイという米粉や小麦粉をクレープの様に焼いたものに、カレーの風味のソースをかけて食べる朝食が有ります。中華料理は非常に複雑で、一つの理由は中国の南方から様々な料理文化を持つ移民者が来たからです。中華料理の中でバクテーというハーブのスープは一番人気が高いです。

それから、バスやモノレールといった都市内の公共交通を利用する方は非常に少ないです。ほぼ全ての大人は車を一人一台所有しています。

マレーシアの国語はマレー語です。私達華人は小さい頃からマレー語、英語と華語を学んできました。でも近年華人系以外の人も華語を学んでいます。

皆さん、機会があったら是非マレーシアへ遊びに来てください。

ナシレマ

ロティ・サイ

バクテー

2分38秒で頭と心を使って…

紙上講座

日本語教師　金子 広幸

今日のお話は私たち日本語教師のこぼれ話です。交流支援のボランティアの皆さんは、文法を導入して練習して、ということはないかもしれませんが、お付き合いください。

私たち日本語教師はときどき学習者の許可を得て、クラスの様子を録画・録音して、振り返りを行うことがあります。

それはある論文を書くために録画を撮った時のことでした。

何枚か絵を使い、「受身表現」の導入を行い、状況を設定して、何度も練習しました。そしてその結果をもとに、学習者が、自分の身の上に起こった「迷惑な状況」を文型に反映させる活動をしました。もともと教室活動について書くための論文なので、何度も動画を見直し、教師や学習者の発言や動作を文字化する作業をしました。自分で言うのもおかしいですが、自分のクラスでの様子や、学習者の突飛な反応がおもしろくて、噴き出して笑ってしまいました。

さて、このとき、受身の絵を見せ始めてから、学習者がひと通り受身の概念が呑み込めて、自分なりの発言ができるようになるまでの時間を計ってみたら、2分38秒でした。

いろいろ調べてみたら、金子の場合、初級から中級の文型導入の時間のほとんどが、この2分30秒から2分50秒の間でした！

実に不思議です。

この2分38秒ですが、どこかで聞いたような気がしていました。

これもある時ふと思い出しました。お気に入りの音楽のハイライト部分がこの2分38秒だったのです！ アレクサンドル・ボロディン作曲　歌劇「イーゴリ公」より「韃靼（だったん）人の踊り」。名匠カラヤン指揮、ベルリンフィルハーモニー管弦楽団の1950年代の録音では、2分38秒。静かなイントロ部分から始まり、美しいオーボエのソロで奏でられる、きわめて印象的なメロディーが一段落つくまでがこの時間でした。

みなさんこの音楽をご存じでしょうか。初めて聞いた者をはっとさせるこのメロディー、一度聞いたら忘れられなくなりますよ。ほかの演奏もオーケストラで演奏されているものなら、ほとんどこの2分30秒から50秒の間。このメロディーは、1953年にアメリカのミュージカル映画『キスメット』の中で『ストレンジャーインパラダイス』という曲に編曲され、さらにトニーベネットや最近ではサラブライトマンなどの有名な歌手によっても次々と歌われ、JR西日本のコマーシャルでも使われています。

また吹奏楽ファンにも人気で、原曲に近い形でよくコンクールでも演奏されているのです。・・・（何と受身文の多いこと！）

2分38秒。そう言えば、私も高校生のころ、吹奏楽でこの音楽を演奏したとき「カネコ君、2分38秒で聞く人の心を揺さぶって、涙を絞るんだよ」と言われていたのでした。

人は一瞬でその印象から何かを感じ、その瞬間の無数の連続で、その都度選択をしているのだと聞きます。コンピュータの二進法のように「1か0」という反応ではなく、もっと人間らしいファジーな反応をしているのでしょう。

クラスで、学習者は「先生の声は聞きやすいな～」とか、「絵がおもしろーい！」とか、「あ、わかるわかる、私も同じ経験があるな～」などと、一瞬一瞬感じながら状況を把握、同情したり、驚いたりして、日本語教師が示す何かを、感動をもって感じ取っているのだと思います。そして自分のものになったとき、それを発言に変えるのでしょう。

この音楽の演奏のとき、ステージの上から聴衆が感激して泣いているのを見ました。たった2分38秒で、こんなにも頭と心を使っているなんて、人はおもしろいですね。そして、自分もこんなにも頭と心を使わせる職業になるとは高校生の私は思っていませんでした。

ちなみに作曲者のボロディンは本業は化学者です。科学者だからこそ、より深く人の気持ちをくみ取れるようにこの音楽を作曲したのかもしれません。

nice to meet you

■時には外国籍市民の代弁者として

地球家族（板橋区）

山田 浩人

活動の拠点となる板橋区の「高島平団地」は、平成27年10月の調査では、駅前の2丁目・3丁目団地に暮らす5、6%が外国人であるというデータが発表され、今後も増加傾向にあることから、多国籍市民との共存共栄が注目される地域です。

「地球家族」は団地の中心に位置する地域センターを所在地として、平成27年6月の設立より、毎週月曜日の午後2時～4時および午後6時30分～8時30分の2部制で日本語教室の運営を開始し、平成28年2月現在、指導ボランティア14名に対して15名の学習者とともに、日本語の交流を楽しんでいます。

また、家族滞在が多い地域性により、4月からは小学生を対象としたKIDSクラスを新設し、午後4時～6時までは、児童の日本語および教科学習をサポートすることとなりました。

指導で心掛けているのは、性別や年齢、生活環境によって、学びたい日本語は個々様々であるため、学習者の希望を第一に考え、担当指導者自らが個別のプログラムを作成・指導をしています。また単に日本語を学ぶ場所としてだけでなく、会話を楽しめる場づくりとして、季節ごとに異文化交流会を計画・実施をしています。

縁あってこの町で暮らす外国籍市民に、「日本が好き、この町でずっと暮らしたい」と思ってもらえるよう、これからも隣人として手助けをすると同時に、時には外国人の代弁者として、区や自治会、教育機関とも連携・協議しながら、民間団体だからこそできる支援をしていきたいと思います。

会員団体紹介

Nice to Meet You

nice to meet you

■語学サポートと日本文化への理解を深める活動を

杉並日本語会話の会（杉並区）

徳田 祐子

http://suginaminihongokaiwa.blog.fc2.com/

「杉並日本語会話の会」は2004年に設立されました。毎週火曜日の午前10時、12時半、午後2時クラスで90分、マンツーマンによる学習を進めています。会場はJR中央線高円寺からほど近い、高円寺北区民集会所の一室。日本語サポーターを務めるボランティアは約40名。主婦を中心にリタイアをした男性の姿も多く、全体として年齢層も幅広いのが特徴です。

会がまとめた「活動実績」によると、昨年（2015年）1年間の学習者数は延べ877人。台湾出身者が最も多く、次いでヨーロッパ出身者、次に北米となっています。分類が変則的ではあるのですが、一国単位では台湾に次ぐのがやはり中国本土の出身者です。昨年にこの報告がなされたとき、古い会員から驚きの声が上がったのが韓国出身者の数字でした。2010年には320数人を数えた韓国出身者が、わずか4年でゼロになったのです。その理由がよくわからず、戸惑う声があがっていました。

活動では、日本文化の理解を深めてもらう機会も設けています。お正月、ひな祭り、こどもの日、七夕など季節ごとの伝統行事については、その都度現物を持ち込み、そのいわれや祝い方を学んでいただきます。12月になると、ボランティアが早めのおせちを持ち寄り、学習者と楽しい試食会を催したりもします。外国の人たちが体験する日本文化の催しも可能な限り取り入れ、書道や生け花、落語鑑賞など盛りだくさん。特に女性の学習者に好評なのが浴衣の着付けです。帯を結び下駄をはいて近くの公園までデモンストレーション。スマホで自撮りをするなどみんな大はしゃぎです。

このほか、学習者が近くの小学校を訪問して生徒と交流をし、給食を共にするというユニークな活動もあり、ささやかながら、地域を巻き込んだ国際交流を図る努力もしています。乏しい予算の中ですが、せいいっぱいのサポートができるようこれからも努めていきたいと思っています。

学習者の声

目のしゅじゅつ

ニーナ・ストリャロバ／ウズベキスタン
やさしい日本語（江東区）

はじめまして。ニーナ・ストリャロバです。こうとうくの　みなみすなに　すんでいます。しごとは　こうこがくしゃでした。

ウズベキスタンから　きました。2008年に　ひこうきで　きました。ウズベキスタンの　タシケントから　なりたまで　8じかんです。

2016年1月21日、こうとうくの　びょういんで　はくないしょうの　しゅじゅつを　しました。1年ぐらい　まえから　ひだりの　目が　よく　みえません。ものが　二じゅうに　みえます。

しゅじゅつは　20分くらいで　おわりました。目ぐすりを　もらいました。にゅういん　しませんでした。あさと　ひると　よるに　目ぐすりを　さします。

二日かんは、テレビを　みませんでした。パソコンも　みませんでした。五日かんは　かみを　あらえませんでした。

ひだりの　目は　よく　みえるように　なりました。

あい先生とニーナさん

ボランティアの声

ニーナさん

岡田 美奈子
やさしい日本語（江東区）

「やさしい日本語」は保育付きの日本語教室です。学習者は、男女・年齢を問わず、小さい子供を保育室に預けて、安心して学習できます。ニーナさんはおよそ5年前に、孫のＴ君（当時2歳）を保育室に預けて、日本語学習を始めました。Ｔ君のお母さんはフルタイムで働いているため、Ｔ君の育児はニーナさんの役目だったようです。当初、Ｔ君はニーナさんと離れるのが不安で、泣いてばかり。ニーナさんは保育室のＴ君が気がかりで日本語学習に身が入りません。保育室の先生方が優しく気長に接してくださったので、Ｔ君は、ほどなく保育室で楽しく過ごせるようになりました。母親のＹさんから「甘えん坊のＴが、お婆ちゃんのそばを離れられるようになって安心しました」というメールが届きました。

ニーナさんが日本語学習を始めたのは、60代後半になってからです。ゼロスタート学習者でした。ベテランのボランティアと1対1で、ゆっくり、ゆっくり歩んできました。母国では世界史の先生をしていたというインテリですから、知識は豊富だし、頭の回転も速いのですが、若い学習者のようには進みません。話したいことはいっぱいあるのに話せないというもどかしさが伝わってきます。それでも、平仮名・カタカナは読み書きができ、会話ができるようになりました。最近は漢字学習も始めました。

私が担当するようになって１年になりますが、ほとんど休まず、熱心に学習を続けています。「Ｔ君は、元気ですか」と尋ねると「孫のＴは空手を習っています。今は青いベルトです。前は赤いベルトでした。次は黒いベルトです。週に二回、ロシア大使館でロシア語を勉強しています」などと嬉しそうに話してくれます。

私は、ニーナさんより、１歳年上ですが、もし仮に、老年期になってから外国に住んだ場合、その国の言葉を覚えることができるだろうかと自問すると、即座に「無理!!」「外国語なんか勉強したくない」という答えが返ってきます。「ニーナさんは偉いなあ」と感心するばかりです。これからも、ニーナさんとの会話を楽しみたいと思っています。

教室風景

◉2015年度のTNVN総会を4月24日（日）に開催します。

TNVN総会と情報・意見交換会を下記のとおり行います。
TNVN会員には別途総会案内をお送りします。

◆日時／2016年4月24日（日）
13：00～16：00

◆場所／社会福祉法人さぽうと21・会議室
東京都品川区上大崎2-12-2
ミズホビル4階
JR目黒駅東口より徒歩3分

◆内容
①2015年度活動報告・決算報告
②2016年度役員選出と活動計画・予算
③総会後に情報・意見交換会を行います。

2015年12月6日に行いました情報・意見交換会（本号P-1,P-2）を踏まえて内容を深めていきます。積極的なご参加をお待ちしています。

2015年12月6日の情報・意見交換会に出席の団体名

江戸川日本語クラブやまびこ（江戸川区　2名）、グッドナイト日本語（江東区）、やさしい日本語（江東区）、早稲田奉仕園日本語ボランティアの会（新宿区）、光が丘ことばの会（練馬区）、初歩日本語（練馬区）、八王子国際友好クラブ日本語グループ（八王子市　2名）、日本語ボランティア翼の会（羽村市）、東久留米にほんごクラス（東久留米市）、まちだ地域国際交流協会（町田市）町田日本語の会（町田市）、ビバ日本語教室（港区）、にほんごの会くれよん（目黒区）、千駄ヶ谷日本語の会（渋谷区）、TNVN 協力会員（町田市）、株式会社スリーエーネットワーク（2名）、港区国際交流協会（2名）

◉『東京都多文化共生推進指針 ～世界をリードするグローバル都市へ』が策定されました。

平成27年度多文化共生推進委員会での討議を経て2016年2月16日に正式決定されました。

◆趣旨
「地域において共に生活する」従来の多文化共生の考え方を発展させ「東京で共に活躍する」という新たな考えに立った多文化共生推進指針策定⇒推進の基本的な考え方及び施策の方向性を示す

◆基本目標
「多様性を都市づくりに活かし、全ての都民が東京の発展に向けて参加・活躍でき、安心して暮らせる社会の実現」

詳しくは東京都のホームページに掲載されていますのでご覧下さい。
http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/chiiki_tabunka/tabunka/tabunkasuishin/0000000755.html

column

町田の団体でMIFA紹介などのミニ講演

昨年 12 月下旬に町田で「日本語ボランティア活動」というテーマでスピーチをする機会があった。私が所属する「シニアネット町田（SNM）」はパソコンを活用して生涯学習や生きがいづくりをしている団体であるが、毎月開催の例会で会員からのミニ講演というものがあり、情報提供を求めている。私は「まちだ地域国際交流協会(MIFA)」等の情報提供をした。MIFA は日本語ボランティア不足で昨年末には 18 名も学習希望者を待機させていたが、残念ながら私のスピーチでは新ボランティアを出すまでには行かなかった。

ただ大変うれしかったことがある。TAMA 日本語共育ネットワークのメンバーであった猿田多磨夫氏が日本語パートナーズ第 1 期生としてタイに赴任されていた。私は猿田氏の報告を多くの人に聞いてもらいたいと思い、私が会員となっている三つの日本語ボランティア団体に提案したが受け入れられなかった。SNM では私と共同講演ということで受け入れてくれた。猿田氏は「こころに残る生徒とのふれあい」というテーマで話された。SNM がどういう団体かということは HP を見れば分かるのでご覧いただきたい。

床呂 英一

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVN の会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVN は会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日午後２時～４時
第５金曜日／休み

◆場所
東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄（東西線・有楽町線・南北線・大江戸線ー出口 B2b）飯田橋駅下車
セントラルプラザビル　10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口
日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしています。
〒162-0823
東京都新宿区神楽河岸 1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス　No.4

◆ TEL：03-3235-1171
（呼出：金曜日活動時間帯のみ）
◆ FAX：03-3235-0050
◆ E-mail：webadmin@tnvn.jp
◆ URL：http://www.tnvn.jp/
◆郵便局払込
口座番号：00100-1-719259
加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

◆会員数（2016年2月12日現在）
正会員：85団体
個人協力会員：16名
団体協力会員：1団体
賛助会員：4団体

◆編集／大木 千冬、岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利、床呂 英一、林川 玲子
◆レイアウト／鶴田 環恵